

微生物・血液培養装置システム 一式の一般競争入札に係る 仕様書及び入札説明書変更について

令和7年5月12日付けで公告した、微生物・血液培養装置システム 一式の一般競争入札に係る入札公告及び仕様書、入札説明書の一部変更を行いましたのでお知らせします。

令和7年 5月22日

国立大学法人浜松医科大学
理事（財務担当） 三沼 仁

1. 入札公告の変更点

変更前

3. 入札書を提出する場所

(3) 入札書の受領期限

令和 7年 5月30日 17時00分

変更後

3. 入札書を提出する場所

(3) 入札書の受領期限

令和 7年 6月13日 17時00分

2. 仕様書の変更点

変更前

1. 調達背景及び目的

現有システムの老朽化により更新する新規システムは、ISO 15189の質保証と今までの検査データの整合性を維持することを目的とした、微生物・血液培養装置システムである。

微生物（細菌）検査の中で、血液培養は、重篤な病態を示す菌血症/敗血症を早期に検出・起因菌を同定する重要な検査である。24時間365日培養する検査体制は、患者への利益、さらに、治療にあたる医療スタッフへの負担軽減など、臨床的かつ業務的な有用性が高い。

現行のシステムを導入して8年が経過し、対応年数を考慮すると、劣化による不具合リスクが高まり、上記の有用性への支障が懸念される。

本システムの導入により患者サービスの向上（有害事象リスクの取り除き）のみならず、医師・看護師の業務軽減への効果も見込まれる。

変更後

1. 調達背景及び目的

現有システムの老朽化により更新する新規システムは、ISO 15189の質保証と

今までの検査データの整合性を維持することを目的とした、微生物・血液培養装置システムである。24時間365日培養する検査体制は、患者への利益、さらに、治療にあたる医療スタッフへの負担軽減など、臨床的かつ業務的な有用性が高い。

敗血症、菌血症、感染性心内膜炎などの重篤な感染症の早期診断および治療方針決定において極めて重要な役割を担っており、臨床現場においてその必要性は年々高まっている。近年では、高齢化の進展や医療の高度化、免疫抑制療法を受ける患者の増加などにより、感染症の重症化リスクが増大しており、これに伴い血液培養検査の需要も増加傾向で、当院においても、過去数年間で血液培養の検査件数は着実に増加している。

現行のシステムを導入して8年が経過し、対応年数を考慮すると、劣化による不具合リスクが高まり、上記の有用性への支障が懸念される。

本システムの導入により患者サービスの向上（有害事象リスクの取り除き）のみならず、医師・看護師の業務軽減への効果も見込まれる。

変更前

調達物品に備えるべき技術的要件

(中略)

1-1-2 500本以上の培養ボトルが同時に測定可能であること。

(中略)

1-1-4 培養ボトルにはレズンビーズの抗菌薬吸着剤を含有していること。

1-1-5 操作画面はタッチパネルを有し、日本語対話方式で表示されること。

1-1-6 培養陽性時には速やかに塗抹顕鏡検査が可能であること。

1-1-7 装置への培養ボトル装填が簡便であり、未登録の培養ボトルでも陽性判定が可能であること。

1-1-8 装置への培養ボトルの装填が確実であることを”音”で知らせる機能があること。

1-1-9 培養ボトルは任意の場所に入れることが出来ること。また、取り出した培養ボトルも任意の場所に再度投入することが出来ること。

1-1-10 装置内蔵のバーコードリーダーにて培養ボトルの登録が可能であること。

1-1-11 外部HDD等にて測定データをバックアップする機能を有すること。

1-1-12 検査情報システムとのオンライン接続が可能であること。また、培養ボトルのステータスが随時送信可能であるか、それと同等の機能を有すること

1-1-13 培養ボトルが陽性になった場合は培養陽性時間も含めて検査情報システムに随時結果送信可能であること。

1-1-14 検体採取時の感染防止のための配慮が工夫されていること。

1-1-15 血液培養ボトルの患者属性、ステータス、培養陽性時間等のデータを管理し、保存できること。

変更後

調達物品に備えるべき技術的要件

(中略)

1-1-2 600本以上の培養ボトルが同時に測定可能であること。

(中略)

1-1-4 培養ボトルは、好気用、嫌気用、小児用、抗酸菌用ボトルの測定が可能であること。

1-1-5 培養ボトルにはレズンビーズ等の抗菌薬吸着剤を含有していること。

1-1-6 嫌気用の培養ボトルは、サポニン等により溶血させて貪食された菌を速やかに培地中に放出させ、血液成分を栄養分として利用可能なボトルであること。

1-1-7 操作画面はタッチパネルを有し、日本語対話方式で表示されること。

1-1-8 培養陽性時には速やかに塗抹顕鏡検査が可能であること。

1-1-9 装置への培養ボトル装填が簡便であり、未登録の培養ボトルでも陽性判定が可能であること。

1-1-10 装置へ培養ボトルを装填した時や培養ボトルが陽性になった時に”音”で知らせる機能があること。

1-1-11 培養ボトルは任意の場所に入れることが出来ること。また、取り出した培養ボトルも任意の場所に再度投入することが出来ること。

1-1-12 装置内臓のバーコードリーダーにて培養ボトルの登録が可能であること。

1-1-13 PCや外部HDD等にて血液培養自動分析装置のデータをバックアップする機能を有すること。

1-1-14 検査情報システム (CLINILAN) とのオンライン接続が可能であること。また、培養ボトルステータスの送信、患者属性、診療科、病棟等の情報を随時受信が随時可能であること。

1-1-15 培養ボトルが陽性になった場合は培養陽性時間も含めて検査情報システムに随時結果送信可能であること。

1-1-16 血液培養ボトルの患者属性、ステータス、培養陽性時間等のデータを管理し、保存できること。

1-1-17 検体採取時の針刺し事故防止に配慮された医療器具を有していること。

3. 入札説明書の変更点

変更前

4. 入札書の提出場所等

(1) 入札書の受領期限

令和 7年 5月30日 17時00分 (中略)

変更後

4. 入札書の提出場所等

(1) 入札書の受領期限

令和 7年 6月13日 17時00分 (中略)